

豊中市教育委員会メールマガジン第 35 号(平成 26 年(2014 年)2 月 21 日(金)配信)

“子どもたちが夢を描ける学校教育” 教育委員会委員 橋本 和明

ソチオリンピックが開催され、さまざまな種目で選手が活躍している。なかでも、若きアスリートたちの奮闘ぶりは見ていて気持ちがいい。フィギュアで金メダルをとった羽生結弦選手は 19 歳、スノーボードで銀メダルの平野歩夢選手は 15 歳、同じく銅メダルの平岡卓選手は 18 歳である。また、惜しくもメダルには届かなかったが、17 歳のジャンプの高梨沙羅選手をはじめ、10 代の若者の健闘ぶりは見事なものであった。彼らはおそらく 4 年後のオリンピックではもっとも高い表彰台に立つことを目標に、自分にさらなる磨きをかけてくれるに違いない。そして、平成 32 年(2020 年)には東京オリンピックが開催される。今はまだ小学生である子どもたちが、6 年後には日本を代表する選手として成長しているのである。そう考えると、彼らのあどけない顔にも、どこかしら頼もしさが映る。彼らが大きな夢をもち、その実現に一歩ずつでも前進できるように、われわれ大人は、まず子どもたちに夢を描ける学校教育を提供しなければならない。それは、彼らに夢を託す少し年上の先輩としての使命でもある。